



# 青山会

## 会報 第一号

令和元年度

### 目次

・会長挨拶	2
・学部長より	3
・総会報告	4
・新任教員挨拶	5
・寄稿 (OB より)	6
・寄稿 (在学生より)	7
・特別寄稿	8~10
・研究室より	11~12
・支部だより	13
・進路状況	14

# 山口大学共同獣医学部 同窓会会員の皆様へ

青山会会長

深町 輝康 (V16)

同窓生の皆様にはますますご清栄のことと拝察申し上げます。

山口大学共同獣医学部同窓会会長に推挙され、就任しました深町輝康でございます。身に余る大役ではありますが、母校の発展、そして同窓生の皆様、在学生の皆様のお役に立つよう微力ながら全力をつくす所存であります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて山口大学共同獣医学部の濫觴（らんしよう）は1884（明治17）年、山口栽培試験場内に開設された獣医講習会であります。翌年この栽培試験場は山口農学校と改称、2年制の獣医科が設置され、その後明治、大正、昭和と年月を経、今年で通算135年が経過したことになります。その間毎年30名が卒業したと仮定すれば、山口栽培試験場から共同獣医学部第2回卒業までに、凡そ4,000名くらいの同窓生を輩出したことになるのではないかと勝手に想像しています。しかし卒業生の記録は山口県立獣医畜産専門学校卒業生からしかありません。明治、大正、昭和（戦前まで）と続く山口農学校の獣医系卒業生のこと、また関連の資料などありましたら、ぜひとも事務局までご一報いただければと思います。

山口大学は2012（平成24）年、文科省の大学設置基準の一部の改訂（2008年）に伴い、鹿児島大学と共同獣医学部を設置、7年後の今年3月にはすでに第2回生が卒業しました。同窓会については昨年、平成30年3月第1回生が卒業するのに合わせ、木曾康郎獣医学部長（当時）や多くの関係各位の多大なご尽力により山口大学共同獣医学部同窓会（青山会）が発足しました。農学部同窓会に所属している獣医畜産専門学校から続く農学部獣医系同窓生は、この共同獣医学部同窓会へ合流統合することになります。



平成30年度卒業式

同窓会の名称“青山会”は、明治維新に大きな影響を与えた吉田松陰らの師匠的存在だった柳井市の海防僧、釈月性（しゃくげっしょう）先生が京阪遊学の時、燃えるがごとき雄心を詠った漢詩「男児立志の詩」、その最終節“人間至る所青山あり”からいただきました。“人間（同窓生諸君）は故郷（大学卒業後）を出て、大いに活躍すべし”という強い決意を述べたものであります。また湯田にも在住した漂泊の詩人、種田山頭火（たねださんとうか、防府市）の自由詩“分け入っても分け入っても青い山”というのがあります。いろんな解釈があるかと思いますが、“行けども行けども（分け入っても分け入っても）果てしない青い山（俳句の道、獣医学）はそう簡単にはたどり着けない”。卒業生、同窓生への励ましの、また戒めの言葉、それが青山というように理解し青山会と命名させていただきました。

私は1969年（昭和43年）母校を卒業しました。1年と6か月を下関市長府で過ごし、3学年時、出来たばかりの吉田キャンパスへ移りました。田んぼの真ん中に、まだ舗装されていない道路も多く雨のぬかるみを通学した記憶が昨日のように思い出されます。現在山口大学は鹿児島大学（VetJapan South）と北海道大学は帯広畜産大学（VetNorth Japan）と、日本の南北2大拠点としてその先陣を切って日本の獣医学教育、研究のレベルを世界水準に高めるべく種々の改革が進行中と聞いております。今年（令和元年）6月、山口大学共同獣医学部は欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の視察を受け“重要不適条項”なしとの内定いただき、今年12月の最終審査を待たせていただくことです。



青山会設立総会



今日、獣医師（我々同窓生）に求められる社会的ニーズはますます高まりつつあります。特に、①人獣共通感染症対策や、②鳥インフルエンザや口蹄疫など国際的な対応が求められる防疫や家畜疾病対策、③公務員獣医師の喫緊な課題である食肉に代表される食品安全対策、そして、④豊かで潤いのある日常生活に必要な不可欠な伴侶度物へ最先端の高度獣医医療提供など、また⑤野生動物の保護管理問題、そして⑥医薬品開発を支える動物医学等々、広範囲で日々変化、進歩し続ける諸分野への獣医師としての役割は重大であります。各界でご活躍の皆様を育ててくれた母校山口大学共同獣医学部は世界水準の教育研究施設へと成長しつつあります。

青山会（共同獣医学部同窓会）は発足したばかりであります。いろんな乗り越えなければならない課題があります。まず農学部同窓会に所属されている同窓生に、共同獣医学部同窓会へのご加入をお願いしなければなりません。そして同窓会本部の役割機能の強化を図り、支部の組織づくりを進め、講演会やセミナーなど実のある同窓会活動を一步一步着実に進めなければなりません。同窓生同士、同窓生と母校がいろんな交流を行い、お互いが切磋琢磨し、そして母校の発展に繋がる**要の役割**を同窓会（青山会）が果たさなければならないと考えています。

皆様のご支援を衷心よりお願い申し上げます。

（令和元年8月）



「桃栗三年柿八年」:

## EAEVE 訪問審査を終えて

共同獣医学部長

佐藤晃一

2018年3月に共同獣医学部同窓会「青山会」が発足されてから、あっという間に1年半が経ちました。その間、共同獣医学部からは一期生と二期生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生の皆は元気に活躍していますか？諸先輩に指導を受けながらも、少しずつ仕事に慣れてきているのではないのでしょうか。

さて、この1年を振り返ってみますと実に様々な事がありました。最大の出来事は、2019年6月9日～14日にかけて、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の訪問審査（Full Visitation）を受審したことでしよう。私たちが共同獣医学部を設置した平成24年（2012年）から、EAEVEの認証を取得することは悲願であり、また必ず取得しなければならぬものとして、8年にわたって準備をしてきました。その準備は多岐にわたり、組織体制の構築、教員数の増大、カリキュラムの変更、臨床獣医学実習および病理・公衆衛生実習の充実化、実習施設の設置などなど、簡単には解決しないものが多々ありました。

準備当初は、周囲の方からガンバレという励ましもありましたが、本当にできるのか？無理じゃないか？等と疑問の声もあがっていました。当初の3年は、どのような教育改善がEAEVEの認証取得に必須なのかを勉強しながら手探りの作業でしたが、EAEVEの中に多くの友人ができるにつれて、やるべきことがはっきりとしてきました。そして、「桃栗三年柿八年」、8年目にして何とかここまで来ることができたと感慨深いものがあります。

EAEVE 認証取得に必要な作業は全て終了しましたが、現時点で合否ははっきりしていません。EAEVE の組織は透明性と公正性をとても重視しており、最終的には私たちが提出している自己評価書（Self Evaluation Report）と視察者8名による

最終評価書（Final Report）の内容を精査し、認証の授与に資するかを専門の委員会 ECOVE（European Committee of Veterinary Education）会議で決定します。この会議の開催は、本年12月11日となっており、まだまだ首を長くして待たなければなりません。素晴らしいクリスマスプレゼントになる事を切に願うばかりです。

今年は10月26日（土）に山口大学のホームカミングデーが開催されます。同窓生の皆様におかれましては、吉田キャンパスへお越しいただき、私たちが8年間をかけて行ってきた教育改善の様子を是非ともご覧いただければと思います。皆様に、お会いできること楽しみにしています。

ぜひともおいでませ山口へ。



EAEVE full visitation にて

## 山口大学ホームカミングデーのおしらせ

山口大学では、卒業生との繋がりと地域の方々との絆を深めること、卒業生や地域の方を大学に歓待することを目的に平成25年度からホームカミングデーを開催しています。

第7回ホームカミングデーは、令和元年10月26日（土）に開催します。

皆様、お問い合わせの上、お越しください。

【開催日時】 令和元年10月26日（土）

10時30分～16時00分

【場所】 山口大学 吉田キャンパス

【参加対象】 卒業（修了）生、退職教職員、在学生、教職員および地域の皆様



\*共同獣医学部では、14:00より施設案内、および田浦保穂教授による一般講演が開催されます。



# 青山会総会報告

## 第1回山口大学共同獣医学部同窓会（青山会）総会

日時：平成30年10月27日（火）15:40～16:10

場所：山口大学獣医学部研究科棟 4F 大講義室

出席者数：48名

議長：酒井 理

司会進行：谷口 雅康

議事署名人：黒田 雄大，北村 菜央

高橋邦昭幹事によって設立総会の開会が宣言された。

議事に先立ち、深町会長より挨拶がなされ、議長を酒井副会長(28期卒)に決定された。

酒井議長より、議事署名人を黒田幹事、北村幹事に指名された。

### <議 題>

#### 第一号議案 事業報告について

谷口常任幹事長より平成30年3月19日から同9月30日までの期間の事業報告が行われた。設立総会、幹事会の開催の他に、準会員の活動支援として学業成績優秀者同窓会長表彰を行ったこと、また他学部同窓会への出席など対外的な活動を行ったことについて報告された。

#### 第二号議案 会計報告について

谷口常任幹事長より平成30年3月19日から同9月30日までの会計報告として、収入・支出についてそれぞれ説明が行われた。その中で、6月末時点での農学部同窓会への預け金（共同獣医学部1期生～7期生の入会金）は総額198万円であり、そのうち20万円が現在移行されており、残りの178万円については今後、農学部同窓会から移行を受ける旨説明があった。また、7期生(平成30年4月入学)の入学案内時には青山会が発足していなかったため、農学部同窓会に入会金を預けてもらったが、第8期生入学時には青山会への入会を直接案内し、入会金を納入してもらう予定であることが報告された。

そして、原口会計監事より会計監査報告がなされ、出納簿および通帳等適正に処理されていることが報告された。

第1号議案及び第2号議案、会計監査報告について採決がなされ、承認された。

#### 第三号議案 山口大学同窓会分担金について

谷口常任幹事長より山口大学同窓会分担金について、青山会は1年もしくは2年程度分担金の納入が免除されることが報告された。一方で、現在農学部同窓会が納めている分担金15万円について、免除期間後は青山会と農学部同窓会とで配分を協議し、決定することが必要であることが説明された。岩田会員より分担金の金額についての質問があり、谷口常任幹事から、農学部同窓会と青山会が分かれたことから、農学部同窓会としても入会金が減少しており、農学部同窓会としては分担金の減額が申し込まれている旨の説明がなされ、青山会と農学部同窓会それぞれの分担金の合計で15万円になるように調整されるのではないかとの見通しが説明され、承認された。

#### 第四号議案 今後の活動計画について

谷口委員より今後の活動方針として、年度内の会報の発行を行うこと、ホームページを活用した情報発信を行っていくこと、山口大学共同獣医学部の発展に寄与する活動を行うことが提案された。さらに深町会長から全国に支部を立ち上げ会員を募っていくことが提案され、東京支部として暫くは農学部同窓会・共同獣医学部同窓会として共同して活動していく方針が説明され、承認された。

以上を以て第1回山口大学共同獣医学部同窓会(青山会)総会のすべての議案を終了し、16時10分に議長は退席した。

高橋邦昭幹事の閉会の辞を以て設立総会を閉会した。

以上

議事録作成：黒田雄大，北村菜央

## 青山会よりお知らせ

青山会では、運営の一環として在学生の積極的な支援を行いたいと考えております。その一つとして5年生の白衣授与式への支援を行いました。

現在、5・6年次の臨床実習の参加のためには、医学部、歯学部、薬学部と同様に、共用試験（Computer Based Testing: CBT および Objective Structured Clinical Examination: OSCE）に合格する必要があります。山口大学では、無事試験を通過した学生に、臨床に携わる自覚を促すという意味で白衣授与式を行っており、青山会はこの白衣の費用を負担しております。

青山会では上記以外でも海外での勉強会への援助など、様々な学生支援を模索中です。青山会へのご入会ならびに会員の皆様よりのご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2019年度 白衣授与式



# 新任教員より



獣医微生物学研究室 教授

はやさか だいすけ  
早坂 大輔

9月1日より、獣医微生物学研究室の教授に着任致しました早坂大輔です。出身は北海道室蘭市で、北海道大学獣医学部を卒業、同大学院獣医学研究科で、ダニ媒介性脳炎ウイルスに関する研究で学位を取得後、長崎大学熱帯医学研究所、マサチューセッツ州立大学医学部、東京都神経科学総合研究所、再び熱帯医学研究所を経て、山口大学共同獣医学部にたどり着きました。その間、マダニや蚊媒介のアルボウイルス感染症の研究に従事してきました。

学生時代はバレーボールをしていましたが今は肩が壊れそうでとてもする気になれず、いまは体型を維持したいがために筋トレする毎日です。

共同獣医学部に着任して思うのは、若い学生も多くおり雰囲気も良く、今後の教育、研究活動がとても楽しみです。どうぞよろしくお願いいたします。



獣医臨床病理学研究室 助教

いがせ まさや  
伊賀瀬 雅也 (V61)

2019年4月に臨床病理学研究室の助教に着任いたしました、伊賀瀬と申します。

出身は山口大学です。腫瘍免疫学を基盤とした犬の腫瘍に関する研究を行なっています。

診察については、現在、腎・泌尿器の専門家になるべく勉強しております。

私ごとですが、5/1の令和初日に入籍しました。今後とも宜しくお願い致します。



動物医療センター 助教

いとう はるみち  
伊藤 晴倫 (V62)

本年度より共同獣医学部附属動物医療センターの助教に着任いたしました、伊藤晴倫です。

昨年まで北海道にいたので、山口の暑さにあまり対応できておらず、体調を崩しがちです。

先日、病院のイベントで光市にある虹ヶ浜に行ってきました。最近始めたロードバイクで総移動距離 56km を駆け抜けたところ、足の疲労が尋常ではなく、海ではあまり泳げませんでしたが、次の日の診察はなんとかこなしました。

これからも体力作りに励みたいと思います。



獣医外科学研究室 助教

すなはら ひろし  
砂原 央

同窓会誌をご覧の皆様、初めまして、私は2018年9月から獣医外科学教室に着任しました砂原央（すなはらひろし）と申します。

簡単ではありますが、ここで自己紹介をさせていただきます。私は秋田県出身で、大学では外科学研究室に所属しておりました。大学院では循環器学を専攻しており、山口大学着任前は循環器疾患を中心に診療を行っておりました。

現在、山口大学では循環器だけではなく、軟部外科にも積極的に取り組んでおります。微力ではあるかと思いますが、何か自分にできることがあれば、遠慮なく申し付けていただければと思います。

未熟ではありますが、卒業生の方々が作り上げた山口大学の名に恥じぬように頑張っていく所存ですので、今後ともよろしくお願い致します。



獣医放射線学研究室 助教

ほりきりその ひろ  
堀切園 裕

本年3月に着任いたしました、堀切園裕と申します。

大学・大学院ともに日本大学の獣医外科学研究室の出身で、軟部組織外科を中心に内視鏡外科やインターベンショナルラジオロジーなど、様々なことを学んできました。

また、学生時代に取得した第1種放射線取扱主任者の資格を活かし、現在はリニアックによる放射線治療にも携わっております。

新しい環境に囲まれておりますが、山口県での生活や高精度放射線治療などにも少しずつ慣れてきて、充実した毎日を過ごしております。

今後も山口大学に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

# OB より

## 製薬会社における獣医師の役割

鳥井 幹則 (V28)

製薬に限らず、食品、化学、農薬など、獣医学の専門知識と技術が期待される幅広い研究領域があり、企業活動に応じた人材の採用ニーズがある。最近では、国際的に動物の福祉と倫理に関心が高まり、動物実験の管理に獣医師としての役割が重要になっている。ここでは、製薬企業における創薬研究者と実験動物の管理に果たす獣医師の役割について紹介する。

創薬研究の初期段階では、新薬のシーズや候補化合物の探索のため、薬理学的効果の基礎検討や感染症の抗菌活性の検討などを行い(写真 1)、これら領域では薬理学や微生物学的研究の専門性が求められる。



写真 1

次に、候補化合物が見えてくると、各種毒性の初期の安全性評価を行う(写真 2)。新薬の申請が日米欧で可能になったことから、これらの安全性評価の研究者には、学会が認定する専門家資格が国際的に要求される。従って、卒後に経験を積み、毒性学や毒性病理学の専門家資格を取得する必要がある。研究所にも資格を有する獣医師が在籍しており、特に、獣医病理学を基礎とした毒性病理学的評価に重要な役割を果たしている。さらに、開発化合物の臨床試験と申請に必要な GLP 安全性試験を行い、申請前後のリスク評価に携わっている。



写真 2

創薬研究をサポートする獣医師のもう 1 つの役割として実験動物施設の管理がある。従来は施設の維持と感染防御に重点があったが、近年は、動物福祉の比重が加わった。実験施設は国際実験動物ケア評価認証協会 (AAALAC) から認証を受け、国際化に対応している。企業内には実験動物委員会があり、AAALAC の認証を受けて、3Rs による動物実験を実践している。AAALAC では、専任獣医師が義務付けられ、獣医師による動物ケア、動物実験計画を遵守した手順の指導や監視が求められ、動物福祉を意識した研究活動の相談に応じている。

獣医学専門家として、創薬の研究・開発に携わり、画期的な新薬を送り出すことにより、社会的責任を果たすことはすばらしい。将来の選択肢の 1 つとして、創薬研究者の道はいかがだろう。夢と目標を大切にしながら進んでいきたい。

## 山口県の公務員獣医師 (農業分野) の職場

山口県農林総合技術センター 石井俊昭 (V31)

農業分野の獣医師は、主に 4 つの職場で業務を行い、連携して畜産振興を進めています。畜産行政を担う畜産振興課、家畜の生産性向上等を指導する家畜保健衛生所、担い手を育てる農業大学校、試験研究を行う畜産試験場です。その一端を紹介します。

行政では予算確保が重要な仕事の一つです。伝染性疾病対策は元よりですが、最近の世の中の動向を踏まえて、スマート機器の利活用や県産畜産物のブランド化など、県としてアピール出来る施策を提案して予算確保に努めています。ただ、厳しい財政事情から思うようにいかないのが現実です。

生産現場で指導を行う家畜保健衛生所は、家畜伝染病の発生時には、農場の防疫措置、周辺の清浄性確認など防疫の最前線に位置付けられます。平成 26 年に山口県で鳥インフルエンザが発生した際、年末年始の防疫措置をマスクも大きく取り上げ、改めて獣医師の果たす役割を再認識してもらう機会となりました。また、家保は、農家巡回を通して伝染性疾病対策や繁殖検診等を実施しますが、農家との信頼関係が仕事を円滑に進める最善策と言えます。

研究分野では、最近、話題となる遺伝子解析技術を活用した家畜の改良、ドローンやリモートセンシングなどの先進機器を活用したスマート技術に関する試験研究を進めています。大学、企業などとも連携して、現場のニーズをどのように技術開発に繋げていくのかなど検討を重ねています。

山口大学共同獣医学部の学生さんには、こうした公務員職場を知ってもらおうと、畜産試験場での診療や繁殖実習、家畜保健衛生所では生産現場の巡回指導に同行してもらい、実際の獣医師業務を体験してもらっています。

公務員獣医師の確保は厳しい状況が続いていますが、こうした実習やインターンシップを通して職場環境や業務内容を理解し、最終的に自分がやりたい仕事、就業先を選択して欲しいと思います。



畜産試験場での診療実習

# 在学生より



## 「6月からの新生活」

山口大学共同獣医学研究科 2年 同窓会幹事 黒田雄大

博士課程の2年目が始まり早4ヶ月が経過しました。同窓会の連載コラム(2019/4/11, 同窓会 HP 参照)にも書かせて頂きましたが、6月から母校の山口大学を離れて東京都の国立感染症研究所で研究生として日々実験に動んでいます。私は静岡県出身なのですが、あまり都会に興味がなく、東京といっても年に1回家族旅行に行くかどうかといった程度でした。しかし、いざ実際に住んでみると、その大都会ぶりに大変驚きました。特に研究所から少し行ったところにある新宿駅周辺は建ち並ぶ高層ビルに人々が溢れかえり、引越したばかりの頃はその人混みに酔いそうになることも多々ありました。他に山口にいた頃と比べてあった環境の変化といえば、徒歩で移動することが格段に増えたことです。研究所は丘の上にあるので駅からはなかなか厳しい勾配の坂を上らなければならず、初めの2-3週間はお尻の筋肉痛に苦しみ、同時に自分の運動不足を痛感しました。都会の人の方が健康的であると噂に聞いていましたが、あながち嘘ではないかもしれません。しかし、2か月も経つとそのような過酷な環境にも慣れてきて今では苦なく生活できるようになりました。

そのような日々の生活で、実験ももちろんそうですが、その他に毎日楽しみにしていることがあります。それは研究所外で食べる昼食です。研究所の周辺には早稲田大学の各キャンパスがあり学生街となっているため、安くても量が多い(所謂コスパの良い)様々なジャンルのお店が数多く並んでいます。山口大学から一緒に国立感染症研究所に移動してきた他の3人と、ネットの評判や時には勘を頼りに行ったことのないお店を開拓することは非常に刺激的で、穴場を見つけた時の喜びは実験で新しい発見をしたときと同じように感動的です。また、これまた実験と同じでトライ&エラーでわかったことがあります。それは「学割」と「大盛り」の併用の危険性です。学割で注文すると学生向けにかなり量の多い料理が出てくるのですが、さらにそれを大盛りにすると夕ご飯が食べられなくなるくらいすごい量が出てくることを学びました。(もし近辺に来られる方がいらしたらお気を付けてください……)

近頃、35℃前後の猛暑が続いていますが、国立感染症研究所村山庁舎におけるP4実験施設の稼働やBSL4病原体の受け入れなど、世間の注目を集める最中に、感染研に移動してきたことは何かの縁なのかなと思います。後輩たちの目標となれるよう、また山口大学出身の方に母校を誇りに思ってもらえるよう、多くを学び、社会に還元していきたいです。

## 「学生生活の近況について」

山口大学共同獣医学部 5年 徳田 陽香

大学生活も5年目に入り、この夏で座学が終わり後期からはポリクリが始まります。学年が上がるにつれ、ゼミや研究室活動、実習など、さまざまなものの両立が必要となり、毎日何かに追われる日々ですが、できることも徐々に増え、楽しく学生生活を送っています。私は臨床病理学研究室に在籍しており、主に内科診療と実験をしています。その中の診療においては、座学だけでは学べない点が多くあります。飼い主さんの希望を考慮し、さらに症例ごとに治療反応が違うため、症例にあった治療法が必要となります。治療の進め方や診断の仕方など、考え方を先生方から直接学ぶことができ、非常に勉強になります。実験においても手技や条件検討、実験の結果と論文での報告をみて考察するなど奥が深く、知らないことの連続でとても新鮮です。他にも、BBQや飲み会、キャンプなど定期的にイベントがあり、和気あいあいとした雰囲気、毎日が非常に充実しています。



研究室集合写真

また、カリキュラムの改変に伴い、実習数が増え外部機関の見学が多くあります。入学当初は獣医師といえば「動物病院のお医者さん」のイメージが強かったのですが、と畜場や食品衛生、環境衛生に至るまで、非常に獣医師の活躍の場が広いことを知りました。産業動物の実習や搾乳や農業体験実習、感染症実習など幅広く経験でき、以前興味なかった分野も楽しく様々な業種に興味を持つことができました。

忙しい学校生活の中で、同期は私にとって大きな存在です。何気ない会話でたくさん笑い、時には真面目に一緒に頑張る仲間として同期にはとても感謝しています。卒業まで残り1年半となりましたが、ポリクリ、就活、卒論、国家試験とまだまだイベントは盛沢山です。残りの学生生活も充実したものとなるように精一杯楽しみながら取り組みたいと思います。



4年生時学年集合写真

# 特別寄稿 1

## 旧制山口獣医専門学校廃校の 危機と回避

山縣 宏 (V3)



### プロローグ

第2次大戦敗戦後の混乱期、旧制山口獣医専門学校が廃校となっていたら、現今の山口大学共同獣医学部の存在は絶無と断言してよい。

1945年(昭和20年)8月、大敗した日本は、無条件降伏し、連合国軍の占領地となった。占領軍総司令部(GHQ)は日本の国家機構、制度、運用等々の一切を支配、改変した。獣医学領域についても例外ではなかった。

### GHQの見解と意向

GHQの公衆衛生局長サムス准将(DM)、同獣医課長スコットソン中佐(DVM)と獣医局長ピーチウッド(DVM)らは、日本の獣医学教育が、中等、高専、大学の3本樹であることを不可として、医科、歯科同等の大学6年制一貫教育に改革するべきだと日本側に強く勧告、要求した。

### GHQの現地調査と山口獣医専

GHQ担当感のピーチウッド博士とスコットソン博士の2人は文部省の係長を帯同して、昭和21年10月から22年10月にかけて日本全国すべての国、公、私立の獣医学教育機関(旧制北大、東大、旧制高専校)を現地調査して、評定、ランク付けした。

当時の山口獣医専の仮校舎(旧制県立小郡高等女学校の校舎)に来たピーチウッド博士らの一行が、昭和22年9月3日、午後3時から約2時間余、校長室で山口獣医専の現状を聴取し、併せて校内を一順したのち去ったのを、筆者ら当時の学生が見ていた。このあと、北島(病理)、木脇(解剖)両先生から、“彼らの評価は極めて悪かった”と伝えられたのを、鮮明に記憶している。

### GHQの評価と決定

1947年(昭和22年)12月、GHQ当局は、下記3校を廃校と決定し、文部省へ命令した。

山口獣医専、慶應義塾獣医専、宇都宮農業獣医学科の3校である。山口はそのトップであった。小郡仮校舎の設備、施設、教員のレベルと資質、能力が、獣医学教育機関として極めて不適格と判定されたのである。

### 廃校決定後3校の明暗

廃校順位トップの山口獣医専は、昭和24年の新制大学へ移行し、現今の山口大学共同獣医学部として成長、発展しつつある。慶應と宇都宮の2校は、生残に無為無策のうちに廃校となって消滅し、存在しない。

山口が廃校を免れたことは、当時の山口獣医専の在校生(3~5期)が、一致団結して、存続のため下記の努力と奔走をしたことによる。1) 県知事(田中竜夫)、県議会に要請して予算措置を仰いだ。2) 下関市長へ要請して、校地と校舎の供与を受けた。3) 県知事が文部省へ山口獣医専の存続を強力に要請してくれた。等々の幸運が重なったことが挙げられる。



小郡 山口獣医専跡

### エピローグ

山口獣医専の設立発足の前段階を含む草創期を知る筆者として、元気なうちに書き残しておきたい史実、エピソードが多々ある。このたび同窓会報に一文を寄せる機会を与えられたので、不発に終わった廃校問題を、史実の一端に書き添え残すことにした。

なお、草創期の歴史、エピソード等々について関心と興味のある方は、下記の拙著3、4篇を一読していただければ幸いである。

- 1) 山口獣医専・山口大学獣医学科発祥の地記念碑建立顛末余話。記念碑除幕式・資料1~10頁。2001年3月4日刊。
- 2) 山口獣医専門学校・山口大学獣医学科発祥の地に記念碑建立。JVM 54巻6号(通巻959号)445頁。
- 3) 獣医学教育制度改革の未成65年余に想う——山口大学獣医学科の場合——第1部 山口大学獣医学科の草創期。山口獣医学雑誌 第37号 23~30頁 2010年。
- 4) 同上 第2部 草創期の禍根とその余燼・獣医学部にならなかった原因。山口獣医学雑誌 第38号 49~54頁 2011年。

## 特別寄稿 2

### 先進医療・陽子線によるがん治療紹介

メディポリス国際陽子線治療センター

アドバイザー 医学博士

原 卓司 (V16)



二人に一人はがんになるという時代だ。現在、がんの治療は大きく分けて下記に示す 3 つの方法がある。

1. 外科手術
2. 化学療法
3. 放射線治療（光子線・粒子線）

外科手術は、ダビンチ等の手術機器開発により精度が一段と向上しているが部位的に手術できないがんの存在、乳がんなど切除による精神的ダメージ、後遺症および術者の技量的格差等は依然として残る。化学療法では、抗体医薬等の分子標的薬等の開発により制がん効果が大きく向上しているが、個人差、耐性獲得や重篤な副作用などの課題は解消されていない。光子線治療においても密封小線源治療、定位放射線治療、IMRT 治療などにより精度、副作用の低減が向上しているが光子線の性質上、がん組織を通して周辺の臓器や組織を痛め重篤な副作用が惹起され患者を苦しめている。いずれも QOL（人間らしく、満足して生活しているか）を十分満たせていない。

宇部高校出身で、昨年度ノーベル賞を受賞された本庶祐先生が開発された世界初の免疫療法の代表であるオプジーボは、悪性メラノーマ、非小細胞性肺がん、胃がん、腎がんなど多くのがんへの効果が認められ、更に拡大する様相をみせている。米国、欧州、日本でも承認されブロックバスターとなった。この実績から前述 3 つのがん治療以外に第 4 の分野として新たに免疫療法を加える動きも見られるが、前述の化学療法の課題は潜在している。

このような課題が山積する中で、手術ができない部位のがんも、転移がんも比較的やさしい治療で効果を上げているのが粒子線治療である。その一つである陽子線治療は、粒子線治療の中で痛みは殆どなく、がんの種類やサイズにもよるが比較的短時間で治療が完了する。前立腺がんを例にとると通常 1 日 1 回 10~15 分、4~6 週間の照射で終了する。がん細胞だけをピンポイントで叩くことが出来、痛みも殆どなく副作用が少ない。私が勤務する鹿児島県指宿にあるメディポリス国際陽子線治療センターは、通院治療の他、治療しながら通常生活を過ごすことが出来（仕事もしながら、ゴルフしながら、釣りしながら、観光しながら）、QOL を満足させる治療として脚光を浴びており、滞在型リゾートがん治療施設として既に 3300 例以上のがん患者を治療している。現在、前立腺がん、小児がん、頭頸部腫瘍、骨軟部腫瘍（脊索腫、軟骨肉腫、骨肉腫など）が公的医療保険（国民健康保険、社会保険など）適用となっており、先進医療（民間保険適用）として膵臓がん、肝臓がん、胆管がん、直腸がんの術後局所再発がん、縦隔腫瘍（悪性）、腎臓がん、食道がん及び早期転移性腫瘍（肺、肝、リンパ節）など多岐にわたるがんに対し治療実績も積んでいる。更に乳がんは乳房が柔らかく動くのでピンポイントが合わせられず治療が困難であったが、現在、乳房の固定器を開発し臨床研究を実施中であり、将来が大いに期待されている。但し、胃や大腸など消化管のがん、複数のリンパ節転移のあるがん、血液のがんなどは治療の適応に入らない。その理由として、消化管壁が薄いことやピンポイントが定まらない可動性の臓器、放射線感受性等の問題があげられる。

これら最先端のがん治療方法は 1946 年に米国の物理学者ロバート・ウィルソン博士が粒子線のがん治療を提唱したことに始まり、1954 年にカルフォルニアのローレンス・バークレー研究所が眼内

悪性黒色腫を対象に臨床研究を開始して同腫瘍の患者を治療した。国内では 1970 年頃に高エネルギー物理学研究所ができたのをきっかけに筑波大の科学者らが陽子線の発生、加速器、照射制御技術を大きく進化させ実用化に大きく貢献した。すなわち、筑波大学発、日本発の新技术である（モノづくりはやはり日本が優秀）。

ここで陽子線の原理、特徴について紹介したい。前述の放射線は光子線と粒子線に分類され、光子線は電磁波でありエックス線やガンマ線が含まれる（図 1）。従来の放射線治療はこれを利用したものである。一方の粒子線は水素の原子核である陽子（プロトン）やメタンガスから取り出した炭素イオン粒子を、磁場を利用したシンクロトロンという加速器で、光速の約 60~70 パーセントの速度まで加速する。この加速したビームを病巣に照射することでがん細胞の DNA を切断し、同細胞を死滅させるのが粒子線治療である。この治療の中で陽子を使うのが陽子線治療、炭素イオンを使うのが重粒子線治療である。それぞれ特徴があるが、世界の粒子線治療施設の中で 9 割以上が陽子線治療施設であることから、ここでは陽子線治療を主体に紹介する。陽子線は一定のエネルギーを与えると体の体内に入る。陽子線は光速の 60~70 パーセントの膨大なエネルギーを有しても目的物（がん組織）にぶつかると止まる間にエネルギー放出して消え、それより先に進まない性質を有している（図 2）。すなわち、陽子線治療は、治療時の苦痛が殆どない上、短時間照射での治療が可能、副作用や局所の再発の心配が少ない治療と言える。特に前立腺がんは 1300 例以上の患者の治療を実施しているが、手術の後遺症で見られる性機能障害、尿もれなど実生活への影響（副作用）は殆ど見られていない。

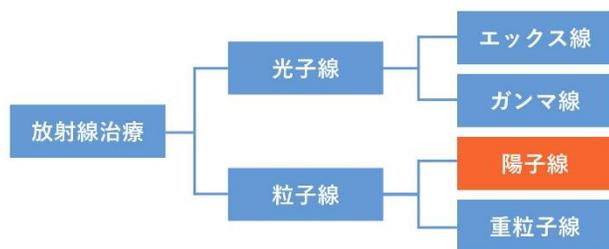


図 1

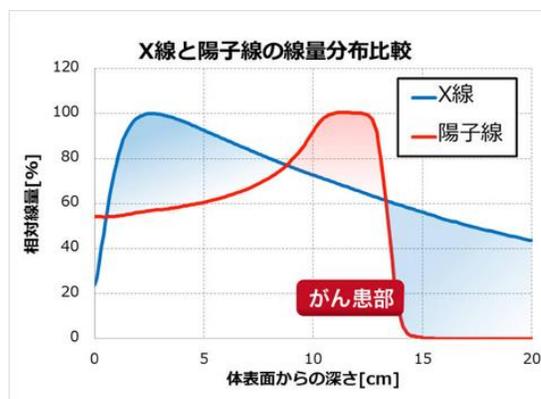


図 2

陽子線治療は 360 度からアプローチできる照射装置（回転ガントリ）が普及し、2500 方向以上から照射が可能となり頭頸部がん（口腔、鼻腔、咽頭の奥のがん）、膵臓がん及び胆管がんなどの手術が困難な細部の腫瘍もピンポイントで叩くこと出来る。また局所再発が少ない（過去に前立腺からの再発は 2 例のみ）。その理由としては明確ではないがアスコバル効果（免疫カアップ）が推察されている。一般に膵臓がんの治療が困難であることは周知のことであるが、8 年前に治療した 60 歳代後半の末期の患者が陽子線と制がん剤の併用で現在も通常の生活を過ごしておられる方もおられる。過去に最高齢 99 歳の肺がん患者も治療可能であったことから高齢者のがん患者にも優しい治療法と言える。

がん治療には、前述のように様々な選択肢があるが、このような新しい先進医療が存在することを、一般の方々にはあまり知られていないので筆をとらせて頂いた。獣医学出身の私が何故このような分野に携わっているのか不思議に思われる方も居られると思う。私達が卒業する時代は、牛馬は耕運機に変わり、それかといってペット医療も今のように栄えていなかった。必然的に製薬会社や県庁へ就職することになった。私自身も某製薬会社に入り長い間、制がん剤など新薬開発の仕事を経験してきた。その延長線上で陽子線治療と出会い、その素晴らしさを知ったことが今回の執筆のきっかけである。

最後に深町輝康初代同窓会会長にこのような寄稿の機会を頂き感謝申し上げます。

主な参考資料

- 1) 菱川良夫：がんは陽子線で治す。株式会社 PHP 研究所（2015 年 9 月 7 日）。
- 2) 永田良一：「がん」を切らずに治す陽子線治療「乳がん治療」の新たな挑戦。株式会社 PHP 研究所（2019 年 9 月 4 日）。
- 3) 小口正彦企画：がん放射線療法 Update 2016。医学のあゆみ、医歯薬出版株式会社（2016 年 4 月 2 日）。
- 4) 堀江重郎：前立腺がんの診断・治療。Mebio、メジカルビュー社（2018 年 2 月 10 日）。
- 5) 玉田耕治：やさしく学べる がん免疫療法のしくみ。羊土社（2016 年 11 月 1 日）。
- 6) 西川博嘉企画：がんは免疫系をいかに抑制するのか・免疫チェックポイント阻害剤の真の標的を求めて。実験医学 2018, 36 (9), 羊土社（2018 年 6 月 1 日）。
- 7) 西条長浩宏、西尾和人編集：がん化学療法・分子標的治療 Update。中外医学社（2009 年 10 月 30 日）
- 8) Long term outcomes of proton therapy for prostate cancer in Japan, a multi institutional survey of the Japanese. Hiromitsu Iwata et al., Radiation Oncology Study Group, Cancer Medicine 2018, 7(3), 677-689.
- 9) Proton Beam Alone for Intermediate-or High-Risk Prostate Cancer: An Institutional Prospective Cohort Study. Takeshi Arimura et al., Cancers 2018, 10, 116-131.



メディポリス国際陽子線治療センター

# 研究室の“いま”

## 獣医解剖学研究室

(2019.08.31 現在)

### スタッフ

教授 木曾 康郎 (D.V.M., Ph.D.)  
教授 日下部 健 (D.V.M., Ph.D.)

### 学生

D4 國吉 信恵 (D.V.M.)  
D3 金子 宗平 (D.V.M.), 小林 俊夫 (D.V.M.)  
V6 齊藤 優貴子, 佐知 本気, 米津 悟  
V5 瀬戸 美穂  
V4 蔵富 まりあ, 兵頭 宗厳

### 研究テーマ

#### 木曾

- ・ 母子境界領域の免疫担当細胞の解明
- ・ 着床誘導の分子生物学的機構
- ・ 妊娠過程におけるサイトカインの役割
- ・ 内分泌攪乱物質の生殖毒性
- ・ 比較胎盤学
- ・ 野生動物からの有効生理活性物質の探索

#### 日下部

- ・ 胎盤における免疫寛容システム
- ・ 妊娠子宮における血管形成因子
- ・ 夜行性哺乳類の網膜の細胞適応性変化
- ・ 野生鳥類の網膜の多様性
- ・ ウシの網膜の生後発育
- ・ ナルトビエイの子宮粘膜の特異性



1978年 東京大学農学部畜産獣医学科 卒業  
1980年 同大学大学院農学系研究科修士 修了  
1987年 農学博士 (東京大学)  
1999年 山口大学農学部教授  
2004年 山口大学教育研究評議員・  
総合科学実験センター長  
2007年 JSPSシステム研究センター  
プログラムオフィサー  
2011年 山口大学大学院連合獣医学研究科長  
2012年 山口大学共同獣医学部教授  
2014年 山口大学共同獣医学部長



1997年 大阪府立大学農学部獣医学科 卒業  
1999年 同大学大学院 農学生命科学研究科中退  
1999年 大阪医科大学 助手  
2007年 医学博士 (大阪医科大学)  
2007年 大阪府立大学大学院  
生命環境科学研究科 助教  
山口大学農学部 准教授  
2010年 山口大学共同獣医学部 准教授  
2012年 山口大学共同獣医学部 准教授  
2018年 山口大学共同獣医学部 教授

### モットー

獣医解剖学はマクロからミクロへ広がり、マウスからクジラまで、人を除くほ乳類、鳥類、は虫類、両生類、魚類を対象とする。動物を見つめて体の構造の違いを知り、細胞、組織の機能の違いを理解し、動物が環境に適応した痕跡を探っている。

研究において「興味本位」は大事である。自分の知的好奇心を再発見し、そこから研究テーマとして具現化する過程を大事にしている。興味を持った事象に対して、仮説を立て、実験方法を選択肢、実験結果を評価し、それに基づいて考察し、更に今後の課題へつなげる。

まずは、興味本位の話をして、知的好奇心を駆り立てるものを見つけ出し、そして「やってみなはれ」が、研究室のモットーです。

### 卒業生の進路

進路は、大学院進学、小動物臨床、大動物臨床、公務員、民間研究所、民間企業など多岐にわたり、幅広く様々な分野に進出しています。

これまでに解剖研究室から、174名の学部卒業生が巣立ち、28名の博士(獣医学)が夜に羽ばたきました。彼らは様々な立場で立派な社会貢献をしています。

### 同窓生の皆様へ

いつでも遊びに来てください。お待ち致しております。Facebookで研究室の近況等を掲載しています。YJK(山口獣医解剖)を検索してください。



左：学部生と花見(2019.04.06)  
下：院生の研究指導(2019.08.22)



## 獣医外科学研究室



外科学研究室集合写真・動物医療センター前

### 着任から 1 年経過して

獣医外科学分野 砂原 央

同窓会報誌をご覧の皆様、ご挨拶するのは初めてだと思いますので、最初に自己紹介させていただきます。私は 2018 年 9 月に着任いたしました砂原央(スナハラ ヒロシ)といいます。出身は秋田県で 1983 年生まれの 36 歳です。大学院では循環器疾患について研究しておりました。また卒業後も大学病院や二次診療施設の循環器診療に携わりながら、一次診療で診療をしていました。現在、行っている研究は循環器疾患に対するものが中心です。今後の獣医医療のためによりよい研究を行い、発表することで、獣医療に還元していきたいと思っております。

私は山口大学動物医療センターで、循環器診療だけではなく、軟部外科診療にも励んでおります。もし私にできることがありましたら、微力ではありますが、全力で取り組みますので、遠慮なく、申し付けていただければと思います。

題名にありますように、早いもので、着任して 1 年が経ちました。私は山口県に来るのも初めて、大学教員も初めてと全てが初めて尽くしの中で、新生活をスタートさせました。山口大学の方々は大変親切で、右も左もわからない私が新生活で困ることがないように山口県での暮らしや山口大学での仕事などさまざまな面で、アドバイスや手助けをしてくださいました。いろいろな方のおかげで、不安だらけの新生活はあっという間に楽しく、充実した生活へと変わりました。そんな中、不慣れな私の山口大学での生活を特に助けてくださったのは同じ研究室の田浦教授でした。その田浦教授が今年度で退官となります。田浦教授は山口大学のレジェンドであり、退官は寂しくもあり、また田浦教授がされてきた仕事を一部とはいえ自分ができるのかと不安もあります。しかしながら、田浦教授や卒業生の方が必死で築き上げたものを自分が台無しにしてしまわないよう全力で頑張っていきますので、もし至らないところがありましたら、助けていただければ幸いです。

最後になりますが、もし皆様が山口にいらっしゃることがありましたら、田浦教授に会いに来ていただければと思います。

## 獣医病理学研究室



病理学研究室卒業式時集合写真・大会館前

病理学研究室には、森本将弘（教授）、坂井祐介（助教）、櫻井優（助教）の三人が所属しております。ここ数年、ヨーロッパの認証のために病理解剖数を増やさねばならず、教員、学生ともに、休日も返上して努力してきました。その甲斐があり基準値をクリアすることが出来ました。

多くの卒業生の方にもご協力を頂きありがとうございました。この紙面をお借りして御礼を申し上げます。今後は、どの様に病理解剖をしていくのかを考えなければいけなく、また、以前は行っていた研究室旅行も現在は行うこともできない状況であり、色々検討しているところであります。

そのような状況ですが、病理とすることで卒業生の方々の手助けも出来ることがあると思いますので、その様な時には遠慮なくお声かけください。

# 支部だより



## 青山会大阪支部とV27 同窓会 2018

青山会副会長 吉内 龍策 (V27)

山口大学共同獣医学部同窓会 = 青山会の副会長を拝命いたしております大阪の吉内です。と申しまして、深町会長や原副会長、酒井副会長、大学の教員の皆様に会務を任せきりで、常々心苦しっております。

また、大阪支部でも同窓会としての組織づくりを仰せついておりますが、焦るばかりで思うように進まず、新たに同窓会支部を立ち上げることの難しさを痛感しております。

一方で農学部獣医学部 27 期の学年同窓会は卒業以来毎年欠かさず開催され、27 期一同「どの学年よりも仲の良い学年」と自負しております。昨年は、台風 24 号が迫る中、9 月 29 日に温泉旅館「日光千姫物語」で開催されました。決まりごとは午後 6 時スタートの宴会のみ。その前後には、誘い合わせて前泊のゴルフあり、観光名所巡りあり、連れ合いと一緒にの参加もあり、何でもありの和気あいの同窓会です。在籍 31 名中 17 組 20 人が参加し、2 名が参加予定ながらも台風のために断念せざるをえませんでした。自分を含め 5 名は、宴会翌日の朝食をパスして、まだ暗い早朝に日光を発ち東海道新幹線が止まる前に何とか帰阪を果たしました。それ以外にも日程を変更したり、電車の遅延と混雑に見舞われたりと、台風により振り回された同窓会でしたが、それはそれで思い出深い同窓会として記憶に残る集まりとなりました。

宴会前にと風雨が徐々にその強さを増す中、早くに着いた仲間と共に日光東照宮を参拝しました。



東照宮巡りで冷えた体を湯船で温めいざ宴会。



後はお決まりのカラオケ。そして、二日酔い（その日酔い？）の体を引きずり、夜も明けきらぬ内に宿を発ち始発電車で宇都宮を目指したのでした。



こんな風に横のつながりは大変に強い獣医学部の同窓会ですが、各々の地域での集まりとなると、なかなかまとまりのないものです。地域での同業のつながりを横に広げ、その横つながりから別業種のつながりへと広げるような動きが必要なのかもしれません。



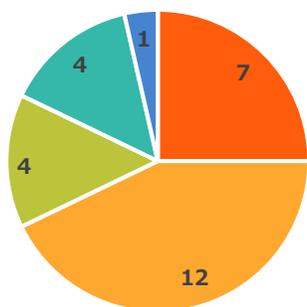
大阪支部で一度集まり、一杯飲むだけの会でも開催できればと考えております。ちなみに大阪支部のカバーエリアは決まっておらず、さしあたり近畿圏なら何処でもという心積もりです。お知らせを何らかの形でお届けいたしますので、その折にはご参加の程、よろしくお願い申し上げます。

# 卒業生進路状況

## 国家試験結果

	第70回	第69回	第68回	第67回	第66回	第65回
	H30	H29	H28	H27	H26	H25
受験者数	28	26	30	31	31	33
合格者数	27	26	26	26	28	27
合格率 [%]	96.4	100.0	86.7	83.9	90.3	81.8

## 平成 30 年度卒業生進路状況



■ 公務員 ■ 動物病院 ■ 団体職員 ■ 企業 ■ 進学



平成 30 年度卒業式後の記念撮影

## 編集後記

昨年10月に開催された第1回山口大学共同獣医学部総会において、今後の同窓会活動の一つに、電子メールで配信する同窓会会報の発行が議決され、今年6月から、上林常任幹事と谷口常任幹事長を中心に作成作業を進めてきました。

学生や教官、OBの方々から共同獣医学部に関する情報を共有し、より一層連携を深めるものにしたと考え、原稿の提供を依頼したところ、多くの先輩方からご寄稿いただき、役員一同、深く感謝しております。

今号は、時間的な制約もあり、十分な情報は掲載できていないと思います。今後は、会員の皆様方のご意見をいただきながら、より良いものにしていきたいと考えていますので、よろしく願います（酒井）。

今回、人生で初めて編集作業というものを体験しました。簡単なものであるにも関わらず非常に難儀し、世の出版に関わる人たちに改めて畏敬の念を抱きました。私事で恐縮ですが、途中で待望の第一子が産まれたりしたことも大変さに拍車を掛けたような気がします。関係各位にはご迷惑をおかけしました。とりあえず、いまから急いで科研費の申請書の作成に取り掛かりたいと思います。拙い編集ですが、楽しんでいただけますと幸いです（上林）。

青山会会報 第一号  
2019年10月

編集委員  
酒井 理 (V28)  
上林 聡之 (V53)

### 山口大学共同獣医学部同窓会 青山会

事務局（代表：谷口 雅康）

〒753-8515 山口県山口市吉田 1677-1 山口大学共同獣医学部内 ☎ 083-933-5911

E-mail; vet-doso@yamaguchi-u.ac.jp Web; <http://seizankai.vet.yamaguchi-u.ac.jp/>